

# THE HIKAWA TIMES

令和3年4月8日  
第83号  
発行：進路指導係

## 令和3年度入試 日川高校進路状況総括

### 国公立大学 72名 私立大学 229名

東北大 ①

東京外語大 ①

東京農工大 ①

群馬大 ①

静岡大 ①

信州大 ⑥

岐阜大 ①

山梨大 ②⑦

都留文科大 ⑬

山梨県立大 ⑬

合格校 (抜粋)  
過年度生を含む

〔国公立〕

北見工大 1名

琉球大 1名

秋田県立大 1名

長岡造形大 1名

諏訪東京理科大 1名

琉球大 1名

長野県立大 2名

静岡県立大 1名

山梨県立大 20名

都留文科大 13名

山梨県立大 16名

〔私立〕

早稲田大 1名

明治大 2名

法政大 1名

成蹊大 1名

明治学院大 1名

日本大 9名

東洋大 2名

駒澤大 4名

その他多数

### 難関突破！その秘訣

東京外国語大学

国際社会学部国際社会学科

北西ヨーロッパ／北アメリカ専攻

山梨大学 生命環境学部

地域社会システム学科

ここでは受験勉強で意識したことや学んだことを書くので、参考にしていただければと思います。まず私が受験勉強を本格的に始めたのは休校期間からでした。初めのうちは受験に向けての勉強を継続していくのがとても大変でした。日川高校では部活動を引退してから勉強に力を入れていく人が多いと思いますが、部活動を引退する間でも「1日に最低30分は勉強する」というように毎日勉強する習慣を作っておくことでスムーズに受験勉強を始められると思います。学習を進めていくうちに自分の勉強法について不安に感じることが多くなりました。ただ学校でもらった参考書などをやっているだけで、大学入学共通テストや志望校の二次試験に合わせた勉強はしていませんでした。そのため、赤本や予想問題集を利用してどのような問題が出題されるのか分析し、これまでの勉強法を見直しました。問題演習では、2つ目のことに気をつけて問題を解いていました。1つ目は、問題を解くテクニックにできるだけ頼らないことです。例えば、問題に慣れてくると、なんとなく見た感じで選択肢を絞れるようになってきます。しかし、そのような場合でも本文や解説をよく読んで、なぜその選択肢が違ってくるのか理解するようにしていました。2つ目は問題を通して勉強した内容をただ暗記するのではなく、頭の中で理解して覚えるようにすることです。大学入学共通テストでは、思考力を測る問題が多く出されると聞いていたので、このことは常に意識していました。これらのことを意識して勉強した結果、大学入学共通テスト本番では自己最高得点を取ることができました。ここで私が受験勉強において大切だと思うことをいくつか書いてきました。入試本番で最後に大事になるのは精神的な部分だと思います。本番に自信を持って臨めるように日々の勉強を全力で頑張ってください。応援しています。

私は7月過ぎまで部活を続けながら勉強していました。そんな私が受験において感じたことは大きく分けて4つあります。まず1つ目に自分が集中できる環境を知ることです。部活との両立では短い時間で密度を高める必要がありました。また、集中できない環境で長時間勉強してもなかなか身につかず勉強が嫌になりやすいです。私は家で集中して勉強することが苦手でした。だから高校1年生の時から部活がない日はなるべく学校に残って教室や自習室で勉強していました。2つ目は苦手科目を諦めないことです。私は英語がとても苦手で、どの科目も満遍なくできることが求められていたため、英語の苦手を克服に取り組み始めました。積み重ねが重要な英語はすぐには点数が伸びず、3年の最初のマーク模試では酷い点数でした。それでも諦めずに毎日英語の長文を読み、分からない単語を書き出し、休み時間や部活の休憩時間に単語を見直す、このような日々を重ねたことで共通テストでは今までの最高得点を取ることができました。

3つ目は公式の丸暗記を無くすことです。私は特に数学で、解法のパターンを丸暗記して分かったつもりになっていたり、模試になると公式の使い方が曖昧になって応用問題が解けなかったり、理解が浅いためどの問題でどの公式を使うのかが分からなくなったりしました。そこで私は、公式の証明や意味から学び直しました。そうすることで、曖昧だった部分がはっきりし、公式の意味が分かることで自然と公式を応用できるようになりました。最後に日川高校では「受験は団体戦」という言葉をよく耳にします。私はこの言葉の意味がよく分かりませんでした。試験には自分1人で臨まなければならず、勉強も周りに人がいても結局は1人で黙々と取り組むからです。しかし私は受験に際して、多くの先生方や友達に助けを頂きました。学年も違えば授業も受け持っていない私の質問に対して、どの先生方も自身の時間を割いて納得するまで付き合ってくれました。クラスメイトとも集中できる空気や受験への不安を共有して励まし、励まされながら取り組むことができました。後まですりやることができました。確かに試験には1人で臨みます。しかしそこに辿り着くまでには多くの人の協力が必要不可欠だと気づかされました。皆さんも仲間や頼れる先生方と共に自分の目標に向かって頑張ってください。

### 令和3年度入試を振り返って

令和三年三月卒業生(単位制二十期生)一三〇名と浪人生の進路状況のうち、四年制大学の合格状況を右にまとめました。

国公立大学合格者は、72名(内現役生は71名)でした。東北大、東京外国語大、東京農工大等の難関大学をはじめ、地元山梨大学は、工学部9名、教育学部7名、生命環境学部4名と多くの合格者を出しました。また、山梨県立大学は、国際政策学部4名、人間福祉学部6名、看護学部6名、都留文科大も13名の合格者を出しました。

私立大学は、延べ247名(内現役生は229名)が合格、短期大学は12名、専門学校等は延べ33名(内現役生は28名)、就職は9名でした。

卒業生は、在学中「文武両道」に努め、各種大会においても大きな成果を残しました。また引退後も、それぞれの進路目標に向かって諦めない姿勢を貫き、3月の後期試験まで頑張った生徒も見られました。少子化になったとはいえ、多くの高校生が目指す人気大学は、相変わらずの高倍率です。加えて、「私立大学の定員厳格化」もあり、今後も厳しい入試状況が続くことが予想されます。

生徒の皆さんは明確な進路目標を持ち、学力向上のための努力を惜しまず頑張ってください。

(進路指導専事 元村 裕)